

# 南太平洋の小さな島：フィジーからの便り #3

2024年5月派遣 天野久雄（シニア）

第3号 10月10日



こんにちは。ラウトカで活動中の天野です。ラウトカはフィジーで2番目の都市です。今回はタウンと呼ばれるラウトカの中心地を紹介します。ラウトカタウンへはナンディから高速バスやタクシーで移動します。1時間ぐらいで料金は安いですが、ここはナンディの観光客がよく訪れる場所でもあります。私が勤務する大学はタウンから少し離れています。先生たちの多くはナンディ周辺やラウトカタウンに住んでいます。現在タウンでは、3人のJICA隊員が活動しています。



ラウトカタウンは、かつては砂糖産業で栄えていた都市です。いまは南太平洋最大の貿易港を持ち、貿易の中心地です。インド系の住民が多く、インド人ショップやヒンズー教寺院など多様な文化に触れることもできます。インフラが整備されていて日本からの語学留学先としても人気があります。この写真はタウンへの入り口にある幹線道路です。右手に銀行や市役所、公園があります。有名なハン

バーガーショップもあります。私は毎週土曜日にタウンへ行きます。昼は人でいっぱいですが、ショッピングモールのフードコートも満席です。タウンの周辺にサトウキビの精製工場があり、サトウキビを山積みしたトラックをよく見かけます。専用レールもあります。木材チップを山積みにした工場もあります。

タクシー運転手の話では、日本の製紙工場に輸出する木材チップだそうです。また輸入した米の精米工場、小麦の製粉工場、トヨタやホンダなど日本車の物流センターもあります。あちこちに、船舶用コンテナが山積みになっています。移動バスの窓からそれらを見てみると、貿易産業の中心地だなあ、という印象を受けます。見ていて楽しいです。



ラウトカタウンには大きな食料マーケットがあります。場外マーケットやスーパーマーケットも周辺にあります。焼き立てパンや牛肉、生活雑貨や電気製品も売っています。インド系の人が多いので、牛肉は目立たない専門店で売っています。食料マーケットでは地元産の野菜やイモ類、バナナなど果物が売られています。とても安いです。リンゴやオレンジ、ニンジン、ジャガイモ、卵などは、主にニュージーランドからの輸入物です。それらの価格は日本

と同じくらいです。とにかく種類が豊富で、食料品を手に入れることに困りません。でも鮮魚は漁港のマーケットでしか買えません。

驚いたことは、キャベツは玉になっていません。見ただけでは、細長いチンゲン菜のようです。キャベツは高原野菜なので、寒さに当たらないと玉になりません。ときどき玉のキャベツが売られていますが、1個が千円近くするのでびっくりしました。輸入品のようです。

カレー用のターメリック粉やジンジャー、チリなど香辛料がたくさん売っています。私はトマトやパイナップル、玉になっていないキャベツ、ニンジン、ロングビーンズをマーケットで買います。安いものばかりです。安いといえば、地元産のカボチャも安いです。バスケットボールぐらいの大きさに200円ぐらいです。食べ終わるのに1週間かかりました。②

物流センター コンテナ



木材チップ工場



製糖工場 サトウキビ



サトウキビ運搬レール



インド人ショップ



シーサイドロード きれい



マーケット バナナ キャッサバ



マーケット カボチャ ココナッツ

